

私たちのまちの地中に2300年前のまちが？

遺跡を掘るといふ作業



南国芸芸道路(高知東部自動車道)の建設で発見された「高田遺跡(野市町下井)」で埋蔵文化財発掘調査が行われています。午前中すでに気温は30度に届きそうな9月なかばのある日、現場では10数人が黙々と作業していました。その人たちの声を聞いてみました。

担当 広報編集委員 井上桂子

きついけど楽しい

土の色の変化に注意しながら、慎重に穴を掘っている人、掘りあげた土を集め運ぶ人…土からの照り返しや、背中に集中する灼熱は容赦ない。根気のいるきつい仕事だとひと目でわかる。この人たちは、8月の酷暑の日々もこの現場で作業を続けてきたという。

に就いたきつかけは知り合いに声をかけてもらったり、地元からの参加だったりのことだった。

調査員は「僕たちの仕事、記録保存ができるのは、地道で体力を要する作業員さんたちの仕事あつてこそ」と言つて、休憩後の作業に戻つて行つた。

弥生時代から人が住んでいた？

今回調査が行われている高田遺跡からは、建物跡や土器棺など弥生時代の遺構や、掘立柱建物、土坑、溝跡など奈良・平安時代の遺構が確認されている。出土品(円面鏡、陶器など)の中には、当時稀少であつた品も含まれており、大変注目されているとのこと。

「休憩！」の声がかかると、みんな一斉にテントの中へ。汗を拭き、水分を補い、体を休める人たちの表情には何とも言えない明るさと充実感が感じられた。「暑くて大変でしょう」と声をかけると「暑いし、しんどい。でもみんなでやるから楽しい」「暑さと寒さが大変」「チームワークが良くない」とできない仕事との声が返つてきた。

高田遺跡の建物群は、一般集落ではなく地域の役所が有力者のものであると見られるそう。税の取り立てや人々のもめ事の処理にあつていたことがうかがわれるとのこと。遺物の出土は遺構と比べ比較的少ないが、誰かが見つけると大騒ぎになるといふ。

遺跡からのプレゼント

地元から作業に参加した一人の男性が、しみじみとこう話してくれた。

「自分の住んでいる土地がいつごろからあるのか、どのような歴史があるのか、作業をしてきて知ることができた。調査員に尋ねると、どんなことも丁寧かつスピーディに教えてくれるのでうれい。古代の政治や文化の拠点は、この物部川のほとり香南市ではなかったかとさえ思えるようになった。近くには下ノ坪遺跡も大切に保存されている。今は、これらの埋蔵文化財を後世の人たちに残してやりたいと、心から思うようになり、発掘作業に参加してほんとうによかった」と。

地道な発掘作業を根気よく続ける人たちに、遺跡は大きなプレゼントをしているかのようだ。



出土品を傷つけないよう発掘は慎重に

編集後記

▼10月1日といえば、衣替え、学生時代、制服が秋冬用に替わることに併せて気持ちの切り替えもできていたような…。冷房完備の時代だからこそ、マル必！ダンスと心の衣替え猪▼先日他界された奥田元夜須町長。昔、彼が話してくれた『役場の中で褒められるがより、町の人にありがと』つて言うてもらえる職員でおらんといかんで。この言葉はの先もずっと忘れぬもりはありません。(た▼敬老の日。祖父母にペアの茶碗と湯飲みをプレゼント。この歳でペアなんて恥ずかしいと言いなから、嬉しそうに使ってくれています。いつまでも2人仲良く、元気でいてください！(り)▼先日、帰宅すると夫がピーマンのきんぴらを作ってくれていました。あまり期待せずに一口食べてみると、あれ？なかなかいいお味。苦くないし、お箸が止まらない！腕を上げたな…。(あ)《広報へのメール》kouhou@city.kochi.konan.jp《香南市のホームページ》http://www.city.kochi.konan.jp



◀出土した陶器類



マチイロ
スマホで
広報を見よう
「広報紙」はアプリ名称が「マチイロ」になりました。